



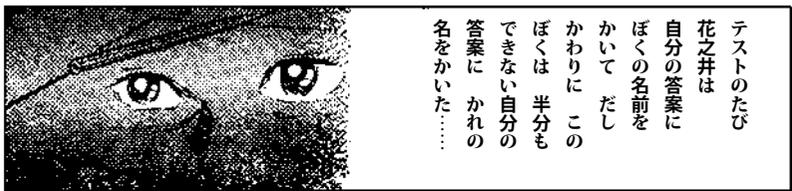


本校で
このほか
ミスター・
パーフェクトと
いわれるに、いたった
期末テスト……

学業部門に
おける実績
など……

すべて 花之井の
てだすけに
よるもの!

なんで
すって



テストのたび
花之井は
自分の答案に
ほとくの名前を
かいて、だし
かわりに、この
ぼくは、半分も
できない自分の
答案に、かれの
名をかいた……



ど、どうして
そんな
ことを……!?



ぼくと花之井とは
中学から、ずっと
同級でね

中学時代
花之井は、学校一と
評判の秀才で
いっぼう、このぼくは
そのころから、空手を
かじっていて、腕自慢の
あばれん坊……



そんなふたりが
おなじ高校へ
進学が、きまったとき
ひとつの協定を
とりむすんだ

当時
花之井には
秀才として
みられるのを
ひどく、きらいな
傾向があつてね



ぼくは
劣等生の常で
一どでいいから
秀才として
みんなから
尊敬されたい
という、つよい
願望があつた

つまり
そこで
紳士協定を
むすぼうと
いうことにな
つたのだ



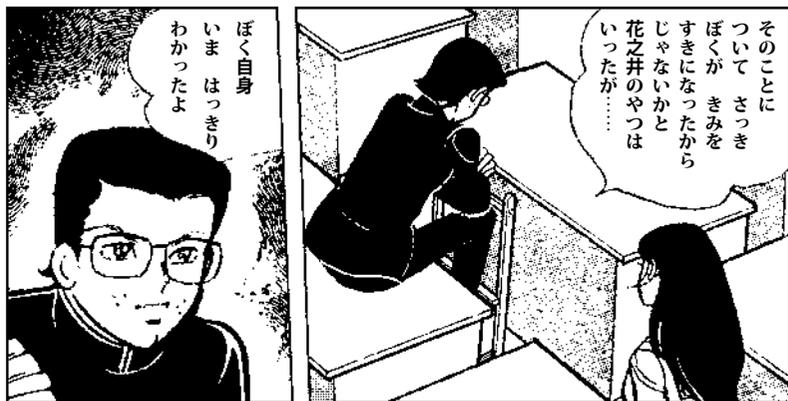
高校進学と同時に
女の子へのアタックに
精をだすという
花之井には、ガリ勉
秀才のイメージは
マイナスなだけ!

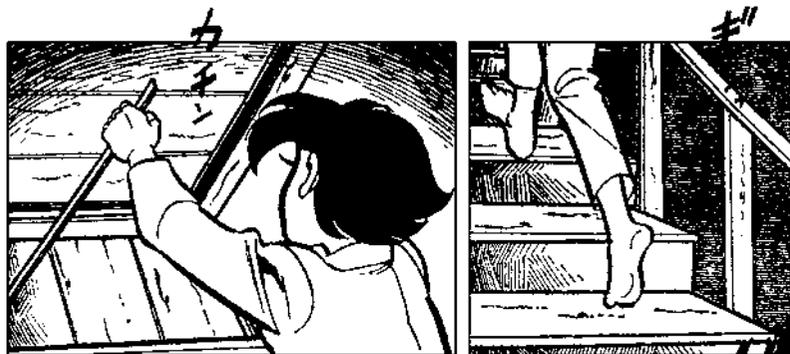
そして、また
キザ道に、男子生徒の
反感をかうだろう
とのことで……



そのボデー
ガード的な役割を
ぼくが、あじわせて
もらおうという
交換条件……

このたぐらみは
だれにも
さどられる
ことなくつづいた
……







ななにを
いうんだ
チビ目くん!



けど アニキの
顔をみたら
もういいや おいら
朝一番の列車で
郷里へ帰ります



でも

男の子が
これぐらいの
ことで ねを
あげるなんて
芸能界入りを
夢みて 上京
してきたから
には 石に
かじりついて
やりとおさ
なくちゃ!



ま ぼくに
まかせておきなつて!
きみに職を失わ
せたのは なんと
いっても ぼくの
責任だから



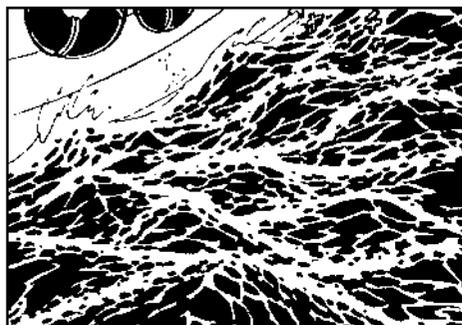
人間が 信じ
られないって
いうけどね

世の中 なにも
明日香リエみたい
わからずやばかり
じゃないぜ

ほれ よく
いうじゃないか
すてる神あれば
ひろう神ありつて



そうは
いっても
アニキには
病気の
おとうさんが
いるだろ?



目をさますと
また なにかと
めんどうだ
ともかく
デッキへ だと
しようや



うん ぼくに
付け人を
やめられた
腹いせに
きみまでだされち
まったつてわけ
か……
リエさんの
やりそうな
ことだな
関係のない
きみにとっては
とんだ災難だった
ねえ



そ そんな
あやまるのは
おいらのほうだよ
アニキを
こんな 深夜に
たたきおこし
たりしたんだ
もの



チビ目くん
ゆるして
くれるよな
ぼくが 勝手な
行動をとつた
ばかりに



でも 気がついたら
ここへ きていたよ
だって…… アニキを
おいて ほか
たよるあても
ないしね



